

阪神・淡路大震災では、川西市でも、死傷者や家屋倒壊などの被害がありました。同震災で救助に当たった消防隊員に話を聞きました。

ガス漏れで出動
1階のない家にあぜん

「お父さんとお母さんが生き埋めになってるから助けろ」
そう言って、小学校高学年か中学生ぐらいの男の子が駆け寄ってきたのを今でも忘れられません。
当時は久代出張所で宿直勤務。今まで経験したことのない大きな揺れが所内を襲いました。
南花屋敷地区でガス漏れが発生したとの無線が入り、すぐに出勤。現場では、ガスの配管が折れてむき出しになり、あちこちでシューシューとガス漏れの音がしていました。
男の子が来たのはそんな時でした。始めは言っていることが理解できなかつたんです。周辺には倒壊しているような建物は見当たりませんでしたから。
私ともう1人の隊員は、その子に案内された現場を見

て、あぜんとしました。1階部分がなくなっていたんです。初めて生き埋めという状況が理解できました。
少年の両親が
2階床の下敷きに
両親は2階の床の下敷きになっていて、どこにいるのか分からない。「そばにあるものをたたくて下さい」と呼び掛けると、何かをたたく音とかすかな声が聞こえました。消防隊として急行していたため、救助用の資機材はほとんどなかったのですが、やるしかない救助にかかりました。
救助活動中、ふと気が付くと男の子が2階の床のわずかなすき間から、救助を待つ父親に手を差し伸べ、握っていました。
危ないからと止めましたが、どうしても離れたくないと動きません。
余震の心配もありましたが、親子を引き離すことができず、そのまま救助活動を続

けました。
その頃は、震災時の活動方法などが確立されていませんでした。今は2次災害を防ぐため、そういったことは絶対にはしません。
当時最大震度5といわれた余震が発生。救助は難航しました。私たちが現場に到着してから数時間後、ようやく応援隊が到着。両親とも助け出すことができました。
父親は冷蔵庫が倒れて空間ができたおかげで、母親は倒れたタンスの扉が壊れて内向きに開き、その中に入ったおかげで奇跡的に助かったようです。2人とも亡くなっていなくてもおかしくない状況でした。



消防本部消防課 課長 大西岳人

経験したことのない揺れと被害

【特集】今、私たちにできること

覚えていますか? あの時を

平成7年1月17日の午前5時46分に起こった「阪神・淡路大震災」。死者・行方不明者6,000人以上を出すなど、大きな被害をもたらしました。しかし、時間の経過とともに、私たちの記憶は薄れつつあります。近い将来、同規模の地震も予測されている中、今、私たちにできるのは、忘れず備えることです。

【問い合わせ】危機管理室 ☎(740)1145



阪神・淡路大震災で被害を受けた市栄根地区

阪神・淡路大震災の記録

■地震・被害の概要

地震発生時刻／平成7年1月17日午前5時46分
震源位置／淡路島北部
(北緯34度36分、東経135度02分)
震源の深さ／16km
地震の規模／マグニチュード7.3
最大震度／7
死者・行方不明者／6,437人
負傷者／43,792人
全壊住家／104,906棟
半壊住家／144,274棟
全・半壊建物／7,132棟
その他／道路の損壊やライフラインの寸断など
(気象庁・消防庁の資料から一部抜粋)

■市内の被害状況

死者／4人
負傷者／551人
全壊建物／554棟
半壊建物／2,728棟
一部損壊建物／6,040棟
部分焼／2棟
道路損壊／143路線
その他／地震発生と同時に、市南部を中心に断水が発生。市内の多くで停電やガスの供給停止が起きました。また、能勢電鉄・阪急電鉄宝塚線・JR宝塚線が全線運休するなど、ライフラインに大きな被害が出ました

南海トラフ地震の発生で予測される被害
地震規模はマグニチュード9.0。県内の被害は全壊建物約3万8,500棟、死者約2万9,000人と予測。市内では南部を中心に、最大震度6弱、全壊建物約390棟、死傷者約520人と予測されています(いずれも26年6月県試算)。
※想定時間帯で被害予測は変わります。



震災の経験を生かす つなぐ

震災の記憶を忘れず次に生かすため。万が一のとき冷静に対処するため。そんな思いを胸に地域で活動する2人に話を聞きました。



復興と鎮魂を願い 始まった大和夢ナリエ

神戸のルミナリエを参考に、震災の翌年から始まった「大和夢ナリエ」。

阪神・淡路大震災からの復興の祈念、そして犠牲者への慰霊と鎮魂といった思いが込められています。

大和地域では大きな被害はありませんでした。ですが、被災した人たちのために「何かできることはないか」という思いを持った人たちが集まり、自然発生的に企画が立ち上がったと聞いています。



大和の夢かなえたい 実行委員会

委員長 八木下 榮一さん

震災の教訓を生かす できた自主防災組織

昔から「向こう三軒両隣」と言われているように、いざという時に生きていくのは、地域の力ではないでしょうか。

大災害が起こった場合、災害直後から行政や警察などの支援が隔々まで行き届くのは、難しいと思います。

そんな時に地域でまず機能するのが、小学校区単位にある自主防災組織なんです。全国各地で組織されるようになったのは、阪神・淡路大



自主防災組織 連絡協議会

会長 鈴鹿 成正さん

一つ一つの積み重ねが大きな力に

震災が起こった後だと記憶しています。震災の教訓を生かした結果でしょうね。

万が一に備え 地道に取り組む

自主防災組織の主な活動としては、防災に関する講演会の開催や地域での防災訓練の実施、発電機や照明、暖房器具など、非常時用備品の点検があります。

また、障がいを持つ人や高齢で体が動かしづらい人といった、避難行動要支援者の把握をコミュニティの福祉部門と協力して行っています。

その他にも、市から地震が起こった時の避難所運営を任されていますので、避難所運営のためのマニュアル作成や運営訓練も大事な活動の一つですね。

ある講演会で聞いて、印象に残っている言葉があります。

「いざというときにできることは、普段やっていることだけ」

いくら頭でいろいろなことを考えていても、災害が起こった時には、ほとんど何もできないのではないかと思います。

伝え続けることが備えにつながる

当時は白熱電球しかなかったようで、思いを込めながら、一つ一つ電球に色を付けて飾り付けていたそうです。

今はLED電球などに代わり、そういった作業はなくなり、そういった作業はなくなり、意思を受け継いで、毎年、思いを込めて設置しています。

薄れる震災の記憶 メンバーの高齢化も課題

震災から20年以上。今ではその傷跡も目立たなくなり、記憶はどうしても薄れてしまっています。それに震災を経験していない人も増えてきました。

夢ナリエをきれいだと言っ て見に来てくれる人に、どう震災のことを伝えるのが課題の一つになっています。

例えば「大和夢ナリエだより」のようなものを作って学校に配ることも考えています。子どもたちが、震災について考えてくれるきっかけになればうれしいですね。

また、メンバーの高齢化も深刻です。高さ10以上のメインツリーや、鉄骨製のゲートなど、ほとんどの装飾はメンバーが自ら行います。点灯

中は漏電や球切れがないか毎日見回りをしています。

業者をお願いするという手もあるのですが、資金に余裕があるわけではないので、何より、メンバー全員が、震災への思いを込めて作業することが大切なんです。それを忘れてしまったら、ただの電飾イベントになってしまいますからね。

今は、若い人たちにもメンバーになってもらえるよう、短時間でも参加できるように仕組みを考えているところです。

1月17日には消灯式

これまで毎年、途切れることなく続けてきましたが、飾りを壊したり、盗んだりといったいたずらは、ありませんでした。それは地域の全ての人々が、夢ナリエのことを誇りに感じてくれていたからだと思います。

1月17日には子どもたちの描いた絵をシールドにしたキャンドルを飾り、消灯式を行います。震災のことを伝え続けることで、皆さんの心に残り、それが災害への備えにつながると思います。

ます。

訓練や非常時用備品といった災害への備えは、使う機会が来ないのが、もちろん一番いいことです。

しかし、南海トラフ地震が近い将来起こることも予測されていますし、いつ必要になるかわかりません。

やはり、普段から地道に訓練などに取り組むことで、いざという時に役立つのではないのでしょうか。

関心を持つことが 命を守るための第一歩

また、人数はまだ少ないですが、地域には専門の知識と技能を持ち、その場の状況に応じて、活動の中心となる防災士という資格を持った人がいます。

災害時には自主防災組織と行政、防災士が連携して取り組むこととなります。

ですがそれだけではなく、皆さんが、普段から災害への備えや地域の防災活動などに関心を持ち、万が一に備えることで、自分や家族、周りの人たちの命を守る、大きな力になるのではないかと思います。



防災グッズチェックリスト

災害発生から約3日間は、平常時のルートからの供給や外部からの支援が困難になる可能性があります。災害用の水や食糧などを特別に購入しなくても、普段から購入しているものを活用し、**3日分**以上を備蓄するように心掛けてください（赤文字の項目は特に準備しておいた方がいいもの）。

非常時 持ち出し品

- ・自分や家族の状況に合わせ、必要なものを準備。
- ・持ち出しの目安は男性15kg、女性10kg。

携帯ラジオ

- ラジオ
- 電池(多めに用意)

懐中電灯

- 懐中電灯
(できれば1人に1つ)
- 電池(多めに用意)

その他

- 衣類
(下着、上着など)
- 生理用品
- タオル
- 離乳食
- 粉ミルク・哺乳瓶
- ウェットティッシュ
- 紙おむつ
- ヘルメット
- かつば・雨具
- ラップフィルム
(止血や食器にかぶせて使う)
- ライター
- 携帯電話の充電器
- 防災マップ

非常時 備蓄品

- ・食糧品は最低3日分。巨大地震に備え7日分が理想。
- ・水は1人1日当たり3ℓが目安。

飲料水

- ペットボトルや缶入りのミネラルウォーター
- 貯水したポリタンクなど

燃料

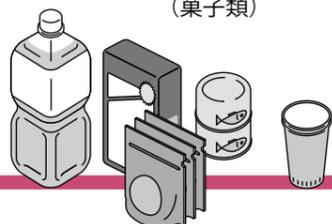
- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

非常食品

- お米
(缶・レトルト・アルファ化米)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・あめ
(菓子類)

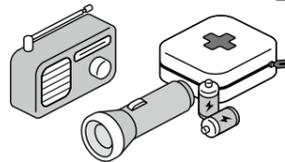
その他

- 生活用水
(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・
ドライシャンプーなど
- 調理器具
(鍋・やかんなど)
- バケツ
- 各種アウトドア用品



貴重品

- 現金
- 貯金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書
- 常備薬
- 傷薬
- 風邪薬
- 鎮痛剤
- ばんそうこう
- 包帯
- 胃腸薬



非常食品など

- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 缶詰
- 缶切り
- 栓抜き
- 紙コップ
- 紙皿
- 箸・スプーン・フォーク
- 水筒

救急医療品

- 常備薬
- 傷薬
- 風邪薬
- 鎮痛剤
- ばんそうこう
- 包帯
- 胃腸薬



災害にどう備えるか

災害発生時、消防や警察、行政などの支援がすぐに受けられるとは限りません。災害に備え、普段から防災グッズのチェックや家族で話し合う機会を持ちましょう。また、防災マップも活用してください。

家族で話し合う

災害時には、家族全員で協力し、助け合うことが必要不可欠です。定期的に次のような項目について、話し合うようにしてください。

▽家の中で一番安全な場所の確認▽小さな子どもや高齢者の避難のサポート▽家族が離れ離れになったときの連絡方法(「災害用伝言ダイヤル171」の活用など)▽避難場所や避難路(実際に歩いて下見する)▽備蓄品や非常持ち出し品の点検など

防災マップの活用

リニューアルした防災マップを昨年6月に全戸配布しました。地図には被害が想定される地域や、避難所・場所などを表示。緊急情報の入手方法や地震発生時の行動、家庭でできる防災・減災対策など

シェイクアウト訓練

1月11日(木)午前10時10分

地震災害を想定
姿勢を低く・頭を守り・動かない

1月11日(木)午前10時10分に震度6弱の地震が発生した想定で、市内一斉にシェイクアウト訓練(地震発生時の安全行動訓練)を行います。実施時には、「まず姿勢を低く・頭を守り・動かない」行動をとってください。

このシェイクアウト訓練は「かわにし安心ネット」(登録が必要)から送信します。また、同日、東久代運動公園で地震災害を想定した防災訓練を実施。各関係機関相互の連携強化を図るため、被害情報収集訓練や救出・救護訓練などを行います。詳しくは危機管理室☎(740)1145へ。

も掲載しています。

ウェブ版(市ホームページから閲覧可)ではグーグルマップで危険区域や避難所情報を閲覧できる他、災害時の避難マップも独自に作成できます。

また、登録制のメール配信サービス「かわにし安心ネット」も行っています。避難情報や避難所開設情報の配信など、他、平時には、防災に関

住宅の耐震化

阪神・淡路大震災で犠牲になった人の約8割は、住宅の倒壊によるものでした。昭和56年以前に建築の住宅は、耐震基準に満たない可能性があるので、耐震診断と必要な改修をしましょう。

市では耐震診断・改修費用の一部を補助する事業を行っています(今年度は受け付け終了。詳しくは市ホームページへ)。

する啓発情報などをお知らせしています。登録方法など詳しくは市ホームページを参照してください。

気構えず、日常生活の中で自然に取り入れる

災害に備えて、備蓄用食材など専用のものを用意するのもいいですが、続けるのがしんどくなると思うんです。値段もそれなりにしますし、保管場所も必要ですからね。

普段口にするものを少し多めに買うようにしておけば、数日間は持つのではないのでしょうか。缶詰や乾物をいつもの食事に取り入れるのもいいと思いますよ。

みそやしょうゆ、梅干し、他にも氷をストックしておけば、電気が止まった時に食材を冷

やすことができ、溶けたら手洗いなどにも使えます。やらなきゃいけないと気構えずに、日常生活の中で自然とできているのが、長く続けるコツではないでしょうか。

先日、備蓄用食材に一工夫しておいしく食べる「ごちそうとぼうさい」というイベントブースに参加し、私たちが持っている知識を伝えることが大切だと感じたんです。これを機に、今までやっていなかった災害時用の料理教室を開催できればと思っています。



川西・猪名川地域活動栄養士協議会
会長 角田節子さん